

## 1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

○ 令和3年度の標準学力調査において、評定1児童の割合30%以下。

## 3. 指標にむけての取組

- 学ぶ意欲の喚起、ねらいを明確にした授業づくり、終末適用問題における形成的評価の実施及び補充を確実にを行う。
- 算数科における少人数授業の実施。
- 「どこで、何を、どのように」書かせるのかを明確にした授業づくりを行う。
- 家庭学習における日記指導を行う。

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移		全国値の正答率を50とした時に対して			
年度	R3年度				
本校(A)	44.0				
嘉麻市(B)	47.0				
(A) - (B)	-3.0				
全国正答値との差 (A) - (50)	-6.0				

## 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- 国語科「文章を書く」の項目において、1・2年生で目標値を上回ることができている。5年生についても、目標値に近い数値となっている。これは、家庭学習における日記、「いなちゃんタイム（100マス作文）」の継続した取組の成果だといえる。しかしながら、条件にあわせて書く（指定された長さで書く、2段落構成で書く等）の項目については、目標値を大きく下回っている。
- 算数科においては、少人数授業を行った単元で、目標値との差が他の単元よりも小さいという結果が出ている。これは、算数の時間における専科配置を全学級で行い、児童の実態に応じた指導を丁寧に行ったことが有効であったと考える。
- 算数科「図形」領域においては、4つの学年で目標値を大きく下回っている。また、評定1児童の割合が、国語56.8%、算数53%とどちらも半数を超えており、基礎基本の習得と定着に向けた取組の徹底が必要不可欠である。

## 6. 各学校における今後の取組

- 自分の考えを明確に表現する力を育成するために、「目的・内容・方法」を明確にした書く活動を位置付けた授業づくりを行う。また、書いたものを座席表で確認したり、適切に評価したりすることにより、書くことへの意欲及び表現力の向上を目指す。
- 基礎基本の習得及び定着を図るために、算数科授業において適用問題における形成的評価を確実に行う。また、「数と計算」領域においては、単元計画にレディネスを整える時間を1時間位置付ける。
- 児童の学ぶ意欲の喚起、望ましい学習環境を保障するために、少人数授業や入り込み指導の充実を図る。
- 評定1児童数の割合を減少させるために、5校時始業前10分間の「いなひがタイム」の位置付け、家庭学習における内容の個別化の推進、条件にあわせて書くなど内容の工夫を行っていく。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
  - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり（指導と評価の一体化）や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
  - ◆嘉麻市学力向上推進員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
  - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。